あの街 この町

〈その1〉八　幡

新しく住居表示の作業が行われ、住んでいるところを○○△丁目△番△号というように数字を用いて表わすようになりました。それは、社会が進歩し、そのしくみが複雑になってきて、今までの住居の表わし方では生活に不都合を生じるようになってきたからです。しかし、住居表示の作業が進み、新しい町の呼び名が生まれて便利になっていく一方では、長い間呼び親しんできた地名が次第に消えて、人々の記憶の中から忘れ去られようとしています。そこで今号から数回に分けて皆さんが住んでいる地域がかつてどのような地名で呼ばれていたかを連載していきます。郷土を知る手がかりにしてください。

※　※

八幡は葛飾八幡宮鎮座の地であることから起こった地名です。

一丁目＝国道14号線（千葉街道）から北側を上町、南側を下町と呼び、上町のさらに北側、現在の五丁目にかけて真間川（境川または新川）沿いから菜洗・菜洗戸・合戸と並んでいます。市役所は上町の西端部に当たります。下町の南は宿下、簡易裁判所のあるところを大圦樋（境川の水門の意）、その南が源・圦下です。

二丁目＝不知森は行徳の飛地でした。不知森の北側が森下です。この地域は葛飾八幡宮の神前に当たるところから、宮之窪・鳥居崎・鳥居前などの地名がつけられています。また、本八幡駅前は居下、八幡駅東の踏切付近を四枚割といいました。

三丁目＝国道の両側を大芝原（草原の開けた地域の意）、その南が東の方から八幡下・二番割といい、不二家政専門学校、八幡小学校の南半分を含めた地域が花輪、花輪と大芝原の間が道角、花輪の北は四丁目にかけて宮堀といいます。

四丁目＝八幡宮を中心にした地域で、八幡宮の所在地が宮之内、西には花輪、宮堀の一部が三丁目から続いています。宮之内の北側四丁目13番の西半分と15番が八幡蔵屋敷で、その北側が居廻といいました。四丁目1番は宮之脇で、その北を五丁目の一部にかけて入谷前といいます。

五丁目＝四丁目の宮之脇に隣接した地域が内合戸、その東が一丁目にまたがって合戸・菜洗戸・菜洗と続きます。その北側、真間川に沿ったところが昆沙門、西が北谷、富貴島と続き、昆沙門と富貴島の間に六丁目から浅間前がのび出してきています。

六丁目＝富貴島小学校のあるところは浅間前、富貴島の地名はその西側に当たります。浅間前から大柏川に沿ったところが浅間後、それから西に北谷原・慈眼前・衣川と続きます。衣川は東菅野との境を流れていましたが、今は暗渠になってしまいました。

次回は南八幡・平田・新田です。